

# 双葉西小学校 学校関係者評価書

平成31年3月5日（火）

（双葉西小学校）学校運営協議会作成

第4回 学校運営協議会（学校関係者評価委員会）

実施日：平成31年3月1日（金）午後3時～

会場：多目的室

参加者：（学校運営協議会委員及び地域支援会議代表者）

\*○印→学校運営協議会委員 その他は地域支援会議代表

○小田切千尋・山田健一郎・○山下千代子・前村はぎ映

石原茂雄・小山田拓也指導監・○日永龍彦・中島雅子

（学校側）

○中村 雅彦（校長）・○長田 理（教頭）・小林克至（教務主任）

中嶋銀河（事務職員）

## I 学校側から提案された内容

- ・平成30年度自己評価
- ・平成30年度教職員自己評価集計結果
- ・平成30年度児童用アンケート集計結果
- ・平成30年度保護者用アンケート集計結果

## II 協議された主な内容

- ・教職員自己評価や児童及び保護者アンケートの結果と課題について
- ・自己評価書が本校の実態を踏まえ、改善策が示されているかについて
- ・アンケート結果を含めた本校の課題に、学校・保護者・応援団を含む地域がその課題にどう取り組むかについて

## <学校関係者評価書>

### 1) 全体評価

教職員自己評価・児童・保護者アンケートの結果から、学校の教育目標・経営方針を教職員が十分意識して教育活動を展開していることが確かめられた。

#### ○教職員自己評価から

肯定的回答の内、100%が57項目中52項目、90%以上が5項目で、全項目、肯定的な評価であった。学校教育を全体的な視点で見た時、本校職員の職務への高い意識がうかがえる。コミュニティ・スクールに関する項目においても、100%の回答が得られた。本年度も大きな人事異動がなく、安定した学校体制のもと、教職員が自信を持って児童の指導や学級学年経営、学校応援団の方々との授業を紡ぐ上での、協力体制作り等に取り組んできたことの現れであると捉えられる。引き続き、学校と地域がより一層連携を継続していきたい。

#### ○児童アンケートから

肯定的な回答の内、100%の項目が27項目中1項目、90%以上の項目が14項目で全体の約52%である。80%の項目を入れると約85%の児童が各項目内容を肯定しており、大部分の児童が学校生活を中心とした自分の生活や活動などに満足している様子がわかる。また、コミュニティ・スクールとしての視点では、地域の方々と紡ぐ授業に有用感を感じている児童が95%に上る等、コミュニティ・スクールとしての成果が定着していることがわかる。

反面、読書への取り組みにおいて課題がみられる。また、「授業中質問しますか」の項目が80%を切っていること、困ったことを相談できない児童が14%いるなど、数値は低いが決して、これらの課題は見過ごすことなく意識を高く持ち、それらの課題の改善に対応していきたい。

○保護者アンケートから

26項目中14項目が90%、80～90%の項目が6項目で全体の約23%に上った。このことから、8割ほどの保護者が、児童が充実した学校生活を送っているという肯定的評価をしていることがわかる。

昨年より達成率が上がった項目は

Q4 学校は保護や地域住民からの声に耳を傾けている……91.9% (H29+4.9%)

Q6 学校は子どもの間違った行動に対して指導している……92.9% (H29+4.3%)

Q24 学校は地域人材の活用を行っている……91.4% (H29+2.9%)

Q13 お子さんは、宿題以外にも自主学習している……75.0% (H29+20.7%)

Q15 困ったときの相談相手がいるか(先生)……75.0% (H29+2.3%)

2) 特徴

・教職員が日頃から高い課題意識を持って教育活動に努めており、学校教育目標に基づいた適切な学校運営がなされている。

・学校長のリーダーシップのもと、教職員同士の親和性が高く保たれ、質の高い教育活動が継続的に行われている。

・地域と学校が良好な関係を継続的に築いてきており、コミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校」の安定期に入っている。

3) 今後の課題として意識されたこと

○職員の方々と交流する機会があった。その折りに、学習指導要領が2020年から全面実施されるにあたり、新たな課題(外国語教育・道徳・プログラミング教育等)への取り組みが増加する反面、働き方改革が進められている現状について、職員から待遇等意識しては教師はできない、使命感を持って職務に当たっているという心境が話され感銘を受けた。先生方の高い使命感に感謝したい。しかし、その気持ちになんとか応えられないか検討してみたい(学校運営協議会々長談)。

○いじめ・不登校等課題を持つ児童の対応については、全職員で引き続き丁寧で地道な取り組みを継続する旨確認された。今年度、スクールカウンセラーが配置され不登校児童等への対応に大きな成果が得られた。

○持続可能なコミュニティ・スクール運営の継続に向けて、関係者の英知を結集して取り組んでいく旨確認された。

○児童の睡眠時間について、アンケート項目の詳細を含め質問が出された。睡眠時間ごとに詳細を報告。全国的に見ると、子どもの睡眠時間の課題(長さ・質の問題等)は、最近のSNSの問題とリンクしている。本校の子どもたちの実態はアンケート結果によると全体的に、睡眠時間は確保されており、保護者の適切な養育意識も高いという評価が出された。しかし、ごく少数ではあるが、スマートフォンの不適切な使用事例(長時間使用やツイッター・テイクトリク等の不適切使用)も報告されていて喫緊の重要課題である。

\*特記事項なし

記載責任者(双葉西小学校 学校運営協議会々長) 氏名: 小田切千尋